



学校だより

平成30年度 12月号

～ひとがすき まちがすき いわさきの子～
横浜市立岩崎小学校 電話 331-5123 FAX 331-5343

学援隊の見守りの中で

校長 杉原 龍司

11月も個別支援学級の宿泊体験学習、1・2年生のズーラシア遠足、3年生の区の音楽会、4年生の神奈川県警の社会科見学、5・6年生代表の市球技大会(バスケットボール)出場と、各学年とも様々な行事が行われましたが、今年もとうとう最後の12月を残すのみとなりました。

さて、岩崎小学校では毎朝、「学援隊」ということで地域の方々が子どもたちの安全を見守ってくださっています。ご存じのように本校の学区は東西に国道1号線が走り、国道脇の裏道や抜け道を走る車で通学路でも安全と言えない状況があります。また、保土ヶ谷駅に向かう通勤者も多く、坂が多く見通しの悪いカーブの道をバイクや自転車がかなりのスピードで疾走する姿も見かけます。私も本校に赴任した当初は、「子どもたちは交通事故に遭わないのだろうか?」と心配したのですが、学援隊を始めとする地域の皆様の見守りのお陰もあり、幸いにしてこのところ大きな事故は起こっていません。

学援隊の皆様は、子どもたちが登校する正門と西門及び信号の無い横断歩道などの通学路の要所に立ってくださっています。年間ですから、陽が照りつける暑い夏の日も、厳寒の冬の日も、そして雨が降っても風が吹いても、ご自分が決められた曜日には欠かさず立って、「おはようございます。」と子どもたちに声を掛けてくださっています。しかもすべてボランティアですから、本当にありがたく、頭が下がります。「子どもたちの安全のために」という強いお気持ちがあれば続けられないことだと思います。

登下校、帰宅後、土日等、学校外での子どもたちの活動や行動のすべてに大人の目を光らせるわけにはいきません。不審者や災害に出会ったときのことを考えると、子どもたちには「自分の身は自分で守る」ということを学校では教えざるを得ません。しかしそれは一面、あまり人を信用せず、人に頼らず、ということをお教えているとも言えることとなります。自分たちの住むこの地域には、自分たちを見守ってくれる信頼できる大人がいる、ということをお子どもたちに知ってもらうためにも、学援隊の見守り活動はそういった意味でもとても大切な、有り難いものだと思います。

こうした学援隊の活動も、かつては現役を引退された方がボランティアで、ということも多かったのですが、近年は生涯現役などともいわれるように、仕事を長期に渡って続けられる方も増えてきていて、なかなかやっただけの方が増えないのも現実です。そんな中、2年程前から霞台自治会の方が岩崎ガードに続く交差点に立ってくださるようになりました。また今年になって、元町自治会の方が旧道(保土ヶ谷町二丁目から元町ガードに続く道)のカーブの見通しの悪いところに立ってくださるようになりました。どちらの自治会もそこに住む子どもたちの多くが、近隣の小学校に通っています。でも、「(岩崎小に)通っている子どもたちが少なくても、見守りが必要だ」ということで、自治会で話し合っ進んで立ってくださるようになったというのです。子どもたちがその思いを受け継いで、今から半世紀後(随分先のことですが)に、学援隊の一員として通学路に立ってけると嬉しいのですが。